沢田内科医院ニュースレター
第88号

日本糖尿病療養指導士に3人が合格

今年３月に試験があった日本糖尿病療養指導士の試験に井上真利子さん、菊池千枝さん、西谷鮎子さんが合格しました。昨年の試験では小堀未希さんが合格していますので、日本糖尿病療養指導士は４人になりました。今年は青森県から看護師は８人しか合格していませんので、沢田内科医院から３人が合格したということはすごいことなんですね！

この資格がなければ糖尿病の指導ができないわけではありませんし、資格を持っていれば就職に有利になるということでもありません。この試験を受ける最大の目的は、糖尿病の知識を深めて患者さんの診療に役立てることです。そのついでに資格を取ろうということで、糖尿病療養指導士の資格を取ることが第一の目的ではありません。しかし、この制度を知ってる人から見ると、糖尿病をすごく勉強している人なんだなということが分かります。

この糖尿病療養指導士の試験は片手間に勉強しただけでは合格しません。看護師ですから糖尿病について基本的な知識は持っています。それに加えて、看護師の仕事をする上では要求されないようなかなり細かいことを覚える必要があります。ですから、多分、糖尿病を専門としない内科医よりも知識の量は多いと思います。もちろん、今回の試験に合格したらそれで十分だというわけではありません。これを基礎にして糖尿病の知識を増やしたり、指導の技能を高めていくことが大事なことです。

この資格は５年ごとに更新する必要があります。そのためには、日本糖尿病療養指導士機構から認定された糖尿病に関する講習会や学会に出席して継続的に研鑽を積む必要があります。弘前市内で開かれることは少なく、県外へも何回も出かけて勉強しなければなりません。これを継続することで、糖尿病に関する知識や技術に磨きをかけ続けるということです。

この試験の受験資格には施設基準というのがあります。つまり、勤務する医療機関では、糖尿病患者さんの診療を日常的に行っていること、管理栄養士が食事指導をしていること、糖尿病教室などで患者さんに対して糖尿病のことを日常的に指導していることなどの体制が整っている必要があります。沢田内科医院はその体制を整えているということです。

今回の試験の準備でこれまでと違ったのは、私がほとんど関与しなかったことです。小堀さんがこの試験を受けた時は私自身が教えました。今回は小堀さんが先生役となって勉強会を重ねました。私自身は何回か出席してアドバイスした程度で、ほとんど自分たちだけで勉強していました。学んだことを他の人に教えることで知識を確かなものにできるだけでなく、これを繰り返すことで沢田内科医院の医療レベルがどんどん上がっていきます。

左から、井上真利子さん、小堀未希さん、
西谷鮎子さん、菊池千枝さん

職員だけのトレーニングがもうひとつあります。超音波検査です。臨床検査技師の宇野洋子さんは、消化器超音波検査士です。もうほとんど私がチェックしなくてもよくなりました。今度は、宇野さんが他の人にこの知識と技術を伝える番です。澤田美紀子さんと西谷鮎子さんが弟子入りしてトレーニングしています。何年か後に、弘前では初めての看護師の超音波検査士が誕生します。トレーニングのために検査には時間がかかっています。通院している皆さまにはご不便をおかけしますが、これも皆さんに提供する医療のレベルを高く保つために必要なことですので、よろしくお願いいたします。

今年のクールビズはピロリ菌だ！！

毎年、クールビズはプリントしたＴシャツにしていますので、今年も新しいものを作りました。いつも医院の活動内容と関連することを題材に選んでいますが、今年も関連する題材で作りました。平成７年に開業した沢田内科医院は10月に開業20年を迎えます。通院している人はすぐに気づきますが、現在、沢田内科医院の診療ではピロリ菌が非常に大きな比重を占めています。そこで、今年はこの２つをテーマとしました。

木村友美さん

毎日、何人もピロリ菌の検査をしていますので、今年のクールビズの題材になるのは当然のことだったのです。デザインをピロリ菌にするのは昨年から決まっていて、ピロリ菌の名前を「ピロリん」とすることも決まっていました。さらに、これにはもう一つのたくらみがあります。10月のアップルマラソンに「ピロリん」を掲げて走るのだそうです。何人かエントリーする人も決まっているようです。走る練習をしている人もいます。

そのピロリ菌の話ですが、平成26年１年間にピロリ菌の検査を1,900件行いました。ユービットという薬を飲んで肺から出る息の中の物質を測る方法で1,346件、便の中にピロリ菌がいないかを調べる方法で554件でした。ピロリ菌で胃炎があり除菌した人が550人、潰瘍で除菌した人が58人、ピロリ菌がいなかった人が427人でした。胃に異常がなくてピロリ菌がいない人は定期的な検査としての胃内視鏡検査は３年に１回やることにしています。

胸には『20th aniver-sary』と書かれています。さりげなく『ぶた』を潜り込ませた20周年を表すデザインです。クールビズには必ずぶたがプリントされています。今回は、ゼロの部分がぶたの顔なのが分かると思います。デザイナーは澤田さやかさんです。

例年のことですが、四中２年生が２人職場体験をしました。二人とも将来は医療関係の仕事を希望しています。３日間の体験学習でしたが、今回は、私が忙しくて対応する時間が取れず残念でした。

看護専門学校のダブルスクール

弘前市医師会看護専門学校では、放送大学と提携してダブルスクール制度をスタートさせました。そして、看護学科1年生が8人入学したことはお知らせしました。

弘前市医師会看護専門学校は、高校を卒業した後、准看護学科2年、引き続いて看護学科3年と5年間在籍します。准看護学科は、多くの学生は午前中は主に医療機関で働き、昼過ぎから夕方まで勉強します。看護学科は日中は医療機関で准看護師として働き、夜に勉強します。90分の講義が2コマあるのです。

放送大学は通信制の正規の大学です。当然のことですが卒業には4年間の在籍期間が必要です。ダブルスクールというのは、看護専門学校に在籍しながら放送大学にも在籍し、並行して勉強し両方の学校を卒業するという制度です。

ダブルスクールのシステムは、この4月に入学した准看護学科1年生を念頭に置いて作りました。3月に放送大学と単位と科目の認定について覚書を交換し、4月に入学した准看護学科1年生が10月に放送大学に入学することを想定していました。思いがけなかったことですが、看護学科1年生8人が4月に放送大学に入学しました。この学生たちが放送大学を卒業するのは、看護専門学校を卒業した1年後になります。

4月に入学した准看護学科1年生に対して6月26日に最終的な説明会を行い、10月に入学するのを待つだけになりました。この説明会では、制度の目的、具体的な勉強の仕方、大学を卒業することに意味、看護専門学校の勉強と同時に行うことの困難さ、などを理解してもらいました。最終的には8月に科目を選択して10月に放送大学に入学することになります。

今年の4月に始まったばかりですが。思っていたよりも早くシステムが整いそうです。来年4月には現在の准看護学科2年生で希望する学生が放送大学に入学します。そして、来年4月に准看護学科に入学してくる学生が来年10月に放送大学に入学すると、准看護学科1年から看護学科2年までの学生がそろうことになります。そして、平成29年10月になると、すべての5学年に放送大学の学生がいることになり、ダブルスクールが完成します。そして、平成30年に初めての卒業生が出ることになります。楽しみです。

このダブルスクールのことを東奥日報と陸奥新報が報道してくれました。ニュースレターには陸奥新報の記事を載せます。

陸奥新報　　2015年（平成27年）7月3日　（金曜日）

弘前市医師会看護専門学校ダブルスクール制度

学位を取得 広がる進路

放送大学と県内初連携 学費もサポート

弘前市医師会看護専門学校（青山公直校長）の学生が放送大学で学位を取得できるダブルスクール制度が今年度から始まった。4年制大学を修了すると学位が授与されるが、専修学校である同校は学位授与がないため、卒業生が4年制大卒の看護師に引け目を感じず働いてほしい―との思いから制度を導入。学位取得により自身のスキルアップや修士課程への進学の道も開け、活躍の場が一層広げられる。看護学校の同制度導入は県内初、全国でも珍しい取り組みという。（成田真矢）

澤田副校長（右）からダブルスクール制度の説明を受ける学生

今年3月の看護師国家試験合格者は全国約5万3000人で、このうち4年制大卒は3割の約1万6000人。大学を含む、看護師養成施設の定員合計約6万人中、およそ2万人が4年制大。そのうち弘前市は、定員合計280人のうち200人が4年制大だ。4年制大卒の看護師は年々増加傾向にある。

また専門看護師や認定看護師、助産師などの研修は基礎資格として学士が必要で、大学院レベルの資格を要するものもある。

このような背景もあり、同校は3月に放送大学とダブルスクール制度についての覚書を取り交わし、4月から運用をスタートした。制度を活用して、4月に看護学科1年の有志8人が入学した。

同校は准看護学科2年、看護学科3年の5年課程。准看護学科1年後期に放送大学へ入学すると、看護学科3年前期で同大修了単位を取得でき、同校と同大を同時に卒業できる仕組みになっている。同大修了に必要な124単位のうち、同校で取得した60単位は同大単位として認定されるため、実質同大で64単位を取得すれば修了できる。

市医師会では費用面でも学生をサポート。放送大修了までに必要な費用約40万円のうち、約半額を同校授業料から免除する仕組みを整え、在学生の制度活用を促している。

6月26日には准看護学科1年生向けに同校で説明会を実施した。参加した弘前市の千葉亜依さん(26)は「がん専門看護師になりたくて大学への編入学を考えていたが、ダブルスクールがあると知ってぜひ活用したい」と制度を歓迎。澤田美彦副校長は「看護学士、大学卒じゃないという理由で悔しい思いはしてもらいたくない。向学心に燃えている人をこの制度で後押しできたら」と話した。

針刺し事故対策

私は弘前市医師会で感染症対策を担当していました。平成19年のはしかの流行や平成21年の新型インフルエンザでは弘前市内での対策は医師会が中心になって行いました。昨年、感染症対策は他の人に代わってもらいました。やり残した仕事がありました。弘前市内で肝炎やエイズウイルスなどの血液を扱った時に、誤って自分の手に針を刺してしまった時の対策でした。

ナルミ医院の鳴海晃先生が感染症対策委員長として、細かいところまで書いたマニュアルを準備してくれました。そして、実際に針刺し事故が起こった場合に備えてシミュレーションを行いました。想定していたように、２時間以内に対応策が決められることが分かりました。

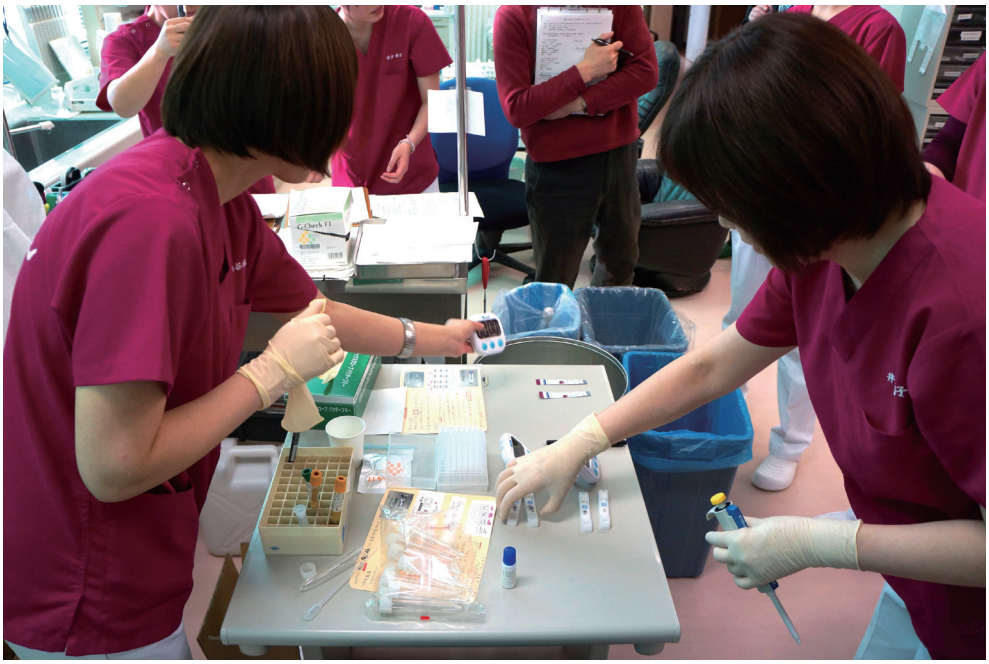
今回の針刺し事故対策は、市内で針刺し事故が起こった場合、夜中でもいつでも私の医院に連絡すればウイルスの検査ができるようにし、エイズウイルスに感染した場合は、直ちに予防薬を飲み始めることができるというシステムです。

検査試薬もエイズウイルス治療薬も青森県が出してくれることになっています。実際にエイズウイルスの薬を飲むことになることはほとんどありません。そのために有効期限が短い高価な薬を用意するのは、医師会でやるにしてもちょっと負担です。これを青森県が負担してくれることになりました。青森県庁に連絡するとすぐにOKでしたが、こんなことは本来、どこが責任を持って実施すべきことなんでしょうね？自己責任？

シミュレーションは、ナルミ医院で針刺し事故が起こったと仮定して始めました。直ちに沢田内科医院に連絡が来ました。そして採血した血液が届けられ、B肝炎ウイルスの検査とエイズウイルスの検査をしました。沢田内科医院では、検査に関しては臨床検査技師の宇野洋子さんだけでなく、看護師全員ができるようにしていましたので、今回の検査も技術的な面で困難なことは全くありませんでした。検査と並行して、針刺し事故を起こした職員に対して私が感染予防について説明しました。

エイズウイルスに対する薬は妊娠していると不都合なことが起こる場合があるので、今回は妊娠反応の検査も行いました。これもいつも検査をしている看護師たちには全く問題がありませんでした。検査は反応がでない血液で練習してもよく分かりません。妊娠反応は尿で検査をするのですが、木村友美さんのお姉さんが妊娠中だったので、尿を提供してもらって陽性反応を確認しました。ありがとうございました！

このシステムは弘前市医師会の医療機関だけでなく、黒石など弘前市以外の医療機関、訪問看護ステーション、介護施設での針刺し事故にも対応することになりました。そこで、６月２日にヒロロで肝炎とエイズに関する講演会と説明会を開催しました。180人という大勢の人が出席し、関心が高いことが分かりました。



リハーサル風景

24時間体制でシステムを維持できるのは、沢田内科医院に入院患者さんがいて看護師がいつもいるからです。ただ、こういう場合には誰かが応援に駆けつけなければなりません。もしも、このシステムのために看護師が検査をしている時に、入院患者さんの具合が悪くなるかも知れません。ですから、いつも誰かが駆けつけられるようにバックアップ体制をとっています。もちろん、私もすぐに行けない場合にそなえてバックアップ体制をとっています。

発　　行：　〒036-8261 青森県弘前市茂森新町1-6-4　沢田内科医院　院長　沢田美彦
ホームページ：　http://www.sawada-naikaiin.com/　TEL 0172-37-7755　FAX 0172-37-7788